

2

YAME
CREATE

暮らし の つくりて

ともに手をとる
八女暮らし

今日も誰かの笑顔に出逢い、ふと幸せな気持ちになる。
「そんな日常が続けばいいな」とみんなが思う。手を取り合
い、喜びを分かち合い、幸せを確かめ合いながら。そんな八
女暮らしの日常があります。



やめっこ未来館／八女市立福島保育所が移転し、併せて新しく地域子育て支
援センターを開設した複合施設。一時預かり事業、やめファミリー・サポート・セン
ターなど、子どもたちの健やかな育成をめざしています。



全国から 選ばれる地へ

子育てのまち八女



KURASHITE
INTERVIEW

子育てしやすい八女市

子育てネットワークやめ会長 田代利衣さん

八女の子育てサークルがゆるやかにつながれば良いという想いから子育てネット
ワークやめの会長をさせていただいています。私自身、4歳の子どもを育てながら働いて
いますが、子育てネットワークやめを通して、地域の方々や同じ子どもを持つママさん
たちともゆるやかにつながり、支え合いながら子育てをしています。また、八女市は施
設面でも恵まれており、子育てしやすい環境が整っていると日々感じています。



アクティブ × つくりて

待ちに待った休日、サッカーボールを片手にやって来たのはスポーツ公園。公式規格のサッカーコートでボールを追いかければ気分はもうサッカー選手。八女東部スポーツ公園「グリーンフィールド八女」は、「グリーンピア八女」地内にあり、こだわり天然芝のグラウンドが人気の施設。敷地内施設には天然温泉や宿泊可能なレジャー施設が併設されており、周辺は森林セラピー基地に指定されています。癒やし、食、ものづくり、スポーツなど、アクティブに過ごせる場所で、今日もたくさんの人々が笑顔を交わしています。



「茶のくに・やめ」マラソン大会

九州オルレ
八女コース

矢部地区にある観光物産交流施設「柚（そま）のさと」／森林セラピー基地を持つ「くつろぎの森 グリーンピア八女」／上陽町のシンボル・ホテルと石橋をテーマにした観光施設「ほたと石橋の館」／旬の食材を使った料理や天然温泉が好評の八女市健康増進施設「べんがら村」



八女市観光案内所/ 八女観光物産館ときめき

茶のくに、歴史のくに、職人のくに、そして観光のくに。五感で満足できるスポットがたくさんあります。観光物産館「ときめき」には特産品をそろえています。

おりなす八女

縦糸と横糸が紡がれ、素晴らしい一枚の布を織りなしていくように、「時」と「人々」が混じり合いながら「豊かな八女」という無限に広がる布を織り上げていく…。八女市民会館「おりなす八女」は、そんなコンセプトのもと誕生しました。文化振興の拠点として、幅広い世代に利用されています。



フルコンサートピアノを備え、コンサートやミュージカル、演劇など、様々な公演やイベントに対応しています。

コミュニティ つくりて

いつの世も大切にされてきた八女市の歴史や文化、自然。それは地域特有の絆の強さ、人と人とのつながりの深さによって守られてきたもの。次代への教えを大切に、継承していくことのすばらしさを八女の人々は知っています。そして今、その精神は地域のコミュニティづくりに活かされ、連携や仕組みを育んでいます。平成24(2012)年7月に発生した九州北部豪雨災害で、八女市は甚大な被害に見舞われました。この時、再認識したのが地域の絆や人とのつながりの大切さです。安全・安心を願い、思いやりでつながる、そんなコミュニティづくりに取り組んでいます。



消防団や老人クラブなど、様々な分野で地域の活動が行われています。そこでは子どもからおとなまで、世代を超えた市民の交流があり、いきいきとコミュニティを築いています。FM八女では、災害時の緊急情報や市からのお知らせ、地域情報満載のオリジナル番組などを制作・放送しています。



全21団体で「地域振興計画」を策定

地域力、つながる力

八女市の21の地域づくり団体が互いに学びあう場として、八女市未来づくり協議会を組織しています。各団体の実践発表会や市執行部との意見交換会、八女市外から講師を招いての研修会、現地研修会の開催が主な活動です。各地域団体ごとに、地域の活性化や伝統の継承を目的に活動をしています。子どもたちも少なくなり、高齢化がますます進んでいきますが、人との交流を続けていくことが、八女の魅力と伝統を継承していくためには、大切なことだと思います。これからも、八女の魅力と伝統を発信し、八女市のまちづくりを行います。

八女市未来づくり協議会 田島富士雄会長





2 暮らしのつくりて 再生 つくりて

「まちの公園」のような場所へ……。そんな想いのもと、市民の手によって旧八女郡役所が生まれ変わろうとしています。明治20年代から大正2(1913)年までは郡役所として使われ、その後、木蠟工場や戦後の集合住宅などを経て平成8(1996)年から空き家になっていたところを、NPO法人

や多くの市民の手によって改修が進められています。大切にしているのは郡役所や木蠟工場だった頃の遺構を尊重し、リノベーションしていること。官民協働による再生・活用の事例として、また、八女福島再生のシンボルとして、古きを守り、新たな集いの場を創出しています。



戦後の情景をそのまま現代に映したかのような土橋(どばし)市場は、SNS映えの人気スポット。土橋の愛らしい商品をプロデュースする「ウメノ商店」。手仕事による商品を扱い、アンテナショップとして地域文化を伝える「うなぎの寝床」など、まちの風情を残しながら新たなにぎわいを生み出しています。



人が育てば、まちも育つ

明治20年代に誕生し、平成8年より空家となっていた「旧八女郡役所」は、平成22年、「NPO法人 八女空き家再生スイッチ」が譲り受け、平成29年3月、ようやく部分的に営業開始となりました。八女を想う多くの人々が再生した、まさに「公園のような憩いの場所」です。八女市には八女福島町の町並みをはじめ、多くの伝統家屋が残されていま

す。歴史的建築物を守りゆくことは、極めて困難を有することです。しかし、人が手を触れて次代につなぐ建物は単なる場所ではなく、「人の居場所」そのものです。人が育てばまちも育つ。八女市はこれからも歴史と今を生きる人をつなぎ、守り続けます。

2

暮らしのつくりて

定住 つくりて

どんな人にも、そこで暮らす確かな理由があります。「季節感のある暮らしが好き」、「素朴で飾り気のない里山生活が自分にはちょうどいい」、「自然豊かな環境で子どもをのびのびと育てたい」など。市では、理想の八女暮らしに少しでも応えられるよう、様々な定住支援・施策に取り組んでいます。若年世帯への家賃支援、空き家バンク制度、住宅改修の補助、充実した子育て支援など、多岐にわたる分野で対応し、「八女に住みたい。住んで良かった」と思ってもらえるような住み良い環境をめざしています。



八女移住計画「八女のロマン」

八女市に住む人の様々な生き方、生活スタイルを発信する移住定住促進プロジェクト。パンフレットや動画、SNSから感じられるのは、ほっこりしていてあたたかく、ノスタルジックな「空気」。改めて八女市の魅力に気付くことができます。ロゴマークは八女市の形をした気球をモチーフに、様々なロマンが散りばめられている姿を表現しています。また、市役所内に設けられた「八女市移住・定住支援センター」では、移住や定住支援施策に関する相談などをワンストップで対応しています。センターの内装は八女産の木材を使用し、八女産の木材のショールーム機能も兼ねています。



農業と子育て。 温もりある暮らしが八女にある

Uターン

野中真太郎さん

八女市立花町のみかん農家に生まれ、その後農業を学ぶため大学、就職と9年間を福岡市で過ごし、子どもの出産を機にふるさと八女へ戻って来ました。都会には何でもあるかもしれませんが、実家には常に家族や地域のつながりがあります。自分が育ってきたように農業に親しみながら子育てをしていきたいという強い想いがありました。八女は福岡県でも代表的な農業のまちです。周りには若い農家も多く、日々刺激を受けながら充実した農業と子育ての暮らしを楽しんでいます。



地域おこし協力隊を経て 感じた八女市の魅力

元地域おこし協力隊

田中臣仁朗さん・浩子さんご夫婦

2人とも3年間地域おこし協力隊として活動をしていました。現在、結婚をして「クマノス」というコミュニティスペースを運営しています。八女市の良いところは、農作物、道具など様々なつくりてさんにお会いできるところだと思います。皆さん尊敬できる方々ばかりです。生産者の方々と近くに感じながら食材をいただける有難さを噛み締めています。つくりてさんたちの意志を引き継いで、食材や道具をいかし、八女のコミュニティのハブになるカフェづくり(コミュニティづくり)をしていきたいと思っています。